

◇令和4年度 南丹市学校・園自己評価書◇

南丹市立殿田小学校

◎南丹市教育の指針を踏まえ、校務分掌ごとに『具体的目標』『評価指標』を設定。

◎評価については、「A・B・C・D」の4段階表記とする。(A:十分な成果が見られた、B:成果が見られた、C:やや課題が見られる、D:課題が大きい)

南丹市教育の指針	令和4年度の具体的目標 (数値目標を含む)	成果	評価	課題	課題に対する次年度に向けた 改善・克服・発展策
「主体的・対話的で深い学び」の実現	・授業のねらいを達成するために、言語活動の内容を重点化し、児童の表現力の向上を目指す。 ・授業での対話場面における効果的なICT活用の実践内容を深める。 【「授業中、自分の考えを持ち、相手に伝えることができている。」(児童アンケート)の項目において、「よくあてはまる」と回答する児童が70%以上であればAとする。また、肯定的回答が併せて80%未満でCとする。】				
地域の特色を生かした道徳教育の一層の充実	・児童の心を育てるために、カリキュラム・マネジメントをしながら「地域との協働」、「家庭との協働」、「学力向上」、「道徳の授業」をつなげて地域道徳に取り組む。 ・各学年、学期1回地域道徳(親子道徳を含む)を実施し、地域の方や保護者の道徳性が高められるようにする。【「学校や学級は社会のルールを守り、人を思いやるやさしい心をもった児童を育てようとしている。」(保護者アンケート)の項目において、「よくあてはまる」と回答する保護者が70%以上であればAとする。】				
学校現場における業務改善を通じた教育の質的向上	・業務の省力化、会議の効率化に向けた環境整備を進めるために、業務の分担化と協働性を向上させ、児童と向き合う時間を増やす。 【「児童と向き合う時間が増えた」(教職員アンケート)の項目において、肯定的な回答が90%以上であればAとする。】				
学びのコーディネート力の向上	・児童の知的好奇心を引き出す教材、対話的な学習場面の活性化等、児童の主体的に学ぶ意欲を喚起させる授業作りに努める。 【「算数科の学習は楽しい。」(研推アンケート)で肯定的な回答が90%以上かつ、「学校の勉強はよくわかる。」(児童アンケート)の項目において、「よくあてはまる」と回答する児童が70%以上であればAとする。また、上記「算数科の学習は楽しい」に対する肯定的な回答が80%未満であればCとする。】				
読書の機会と環境の拡充	・児童が読書に親しみ、進んで読書に取り組もうとする環境を整えるとともに、家庭・地域と連携した多様な取組により、読書活動を活発化させる。【「本を読むことが好き」(児童アンケート)の項目において、肯定的な回答が100%であればAとする。】				
人権教育を基盤とした教育の推進	・人権学習及び同和問題学習研究授業等を通して人権学習を充実させ、児童の人権意識を高める。身の回りの問題を、「誰か」のことでなく「自分」のこととして考えさせ、差別のない学校を目指す。【「人を大切にしている」(児童アンケート)の項目において、肯定的な回答が100%であればAとし、80%未満であればCとする。】 ・学力向上部と連携して学力の充実を図る。(国語・算数の評価テストで平均90点以上にする。)				
生徒指導の3機能を生かした指導の充実	・毎月、児童実態を共有する場(例会)を設け、情報や指導の方向性を共有することにより、児童理解に努める。【「先生や友達からがんばったことをほめられ、うれしかったことがある。」(児童アンケート)の項目において、肯定的な回答が90%以上であればAとし、80%未満でCとする。】 ・自ら進んで気持ちの伝わるあいさつをする児童を育成する。【「自分から進んで友だちや人にあいさつをしている。」(児童アンケート)の項目において、肯定的な回答が90%以上であればAとし、80%未満でCとする。】				
防災教育の推進	・多様な場面想定に基づく計画的な避難訓練や防災イベントを実施し、学校運営協議会をはじめ地域・家庭・関係機関と協働した防災教育を推進する。そのために取組などを発信し、防災についての意識を高めていく。【「学校は、危機管理に取り組み、安心・安全な学校生活を送れるよう努力している。」(保護者アンケート)の項目において、「よくあてはまる」と回答する保護者が70%であればAとする。】				
体力・運動能力の向上	・児童の体力・運動能力の向上のために、年間を通して朝の体力づくりに取り組んだり、休み時間での外遊びの充実を図ったりする。【児童アンケートの「自分から進んで体力づくりやスポーツをし、体をきたえている。」の項目において、「よくあてはまる」と回答する児童が80%以上であればAとする。また、「よくあてはまる」と回答する児童が70%以上であればB、60%以上であればCとする。】				
地域社会をキャンパスとした学習の充実	・「地域道徳」「ふるさと学習」を計画的に進め、地域人材を活用した学びの場を昨年度よりもさらに充実させ、日吉のよさを発見させる。特に、人材活用について、地域コーディネーターと連携を密にし、人材の適切な活用とさらなる開発を進める。【「学校は地域の人と一緒に学習活動等をする機会を取り入れている」(保護者アンケート)の項目において、「よくあてはまる」と回答する保護者が80%以上でAとし、70%未満であればCとする。】				
ユニバーサルデザイン環境の構築	・視覚化・手順の具体化・指示発問の明確化など、児童にとって分かりやすく学びやすい授業や教育環境にする。【「ユニバーサルデザインの視点にたった授業作りができた」(教員アンケート)の項目において、肯定的な回答が90%以上であればAとする。】 ・教室や学校に行きにくい児童やその保護者に対して、校種間連携による切れ目のない支援体制の充実や関係諸機関との連携協働等により、自立に向けて向けて支援をしていく。				